

3日目

●研修地

△宮城県利府町

●研修内容

利府町は、人口約34,000人、東は太平洋の海岸地域から中山間地まで面積45km²。

町内には、大型商業施設イオンや、JRの貨物基地、ベガルタ仙台の準ホーム「宮城スタジアム」がある。

平成21年度の財政力指数0・85の町。

利府町の震災被害は、人的被害は死者30人行方不明0人。

家屋被害は全半壊、1,050棟、一部損壊は3,500棟、床上浸水45棟、床下浸水14棟火災発生0件、救急搬送3件と、家屋被害からすると人的被害は少ない。

災害対策本部と議会は連携を密にしながら、復旧活動を最優先にした。

震災直後から、議員が住民のパイプ役に徹し、避難所運営にも率先した

行動で対応したと伺い、日ごろの心構えが行動に表れると感じた。

●今後の課題

震災時には、議員間の申し合わせ事項の必要性や、議会における対応や行動の重要性を、議員全員で共有したい。

研修で学んできた事を議会で活かし、災害時に議会としてできる最大の行動と、役に立てる議員の資質向上を目指したい。



文教常任委員会

5月25日

●研修目的

△国民体育大会実施後の施設（ホッケー場）の利用などの取り組みについて

●研修地

△島根県奥出雲町

●研修内容

奥出雲町は、人口約14,400人、世帯数約4,900世帯、面積368km²で、総面積の83%を森林が占める豊かな自然環境があるところだ。昭和48年島根国体の開催が決定し、ホッケー競技の内定となる。昭和49年島根県ホッケー協会を設立し、国体準備にとりかかるが、町民の反応は、ホッケー競技にはあまり関心がなかった。昭和57年くにびき国体が開催されたが、当時、チームを結成するのがやっとだった。国体終了後、ホッケーの町「奥出雲町、町技ホッケー」を掲げ行政と

協会が一体となり、様々な地域に根ざした取り組みをした。平成5年度から、新たな敷地を造成し人工芝ホッケー場の整備を始め、平成7年度に、管理棟を含め総工費10億5千万円で三成公園ホッケー場が完成した。

強化策として、スポーツ少年団の結成や行政との連携で指導者派遣制度の確立、中・校・一般との連携による合同合宿や強化部会の設立、成年男子（セルリオ島根）の日本リーグ加盟、全国トップレベルの練習試合、合宿要請などを行なった。

現在は、町技ホッケーとして根付き、地元の学校のチームも常にトップレベルに成長し、ホッケーの特待生を受け入れるまでになった。また、ホッケー場の使用状況は、冬季は積雪のため使用できないが、それ以外の期間は、予約でいっぱい状況である。

●今後の課題

少子化対策や指導者の確保、社会人の強化として地元での職場の確保などの対策が必要だ。

そして、行政、地域の方々の参画を得ながら協会と連携をとり、国体に向けた取り組みが必要なこと。国体後、多目的施設にするか、ホッケーの町づくりにするか、町の活性化のための取り組みが大変重要だと感じた。



奥出雲町の整備されたホッケー場